



認 定 書

国 住 指 第 2 2 6 3 号
平成 21 年 10 月 23 日

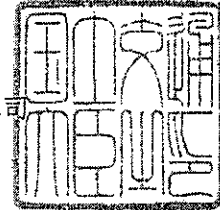


ニチハ株式会社

代表取締役社長 井上 洋一郎 様

国土交通大臣

前原 誠司



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号の二及び同法施行令第 107 条の 2 第二号（軒裏：30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

QF030RS-0157

2. 認定をした構造方法等の名称

換気スリット・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

3. 認定をした構造方法等の内容

別添の通り

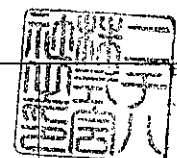
（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。



清々らしい人間環境づくり

ニチハ株式会社

管理番号 NICHHA・F-



1. 構造名：

換気スリット・両面化粧有機質系繊維混入セメント板表張／木製下地軒裏

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
軒の出	1000mm以下
軒の幅	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
軒の形状	勾配又は水平

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様								
被覆材	<p>材料：両面化粧有機質系繊維混入セメント板</p> <p>組成：</p> <table border="0"> <tr> <td>セメント質原料</td><td>70(±7)質量%</td></tr> <tr> <td>無機質混和材</td><td>22(±7)質量%</td></tr> <tr> <td>有機質繊維</td><td>6(±2)質量%</td></tr> <tr> <td>有機質混和材</td><td>2(±1)質量%</td></tr> </table> <p>但し、</p> <p>セメント質原料：セメント、けい酸質原料等</p> <p>無機質混和材：パーライト、マイカ等</p> <p>有機質繊維：パルプ、合成繊維等</p> <p>有機質混和材：パルプ粉等</p> <p>塗料(表裏面)</p> <p>材料：1)～6)の一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アクリルウレタン樹脂系塗料 2) アクリル樹脂系塗料 3) アクリルシリコン樹脂系塗料 4) ふっ素樹脂系塗料 5) エポキシ樹脂系塗料 6) ポリシロキサン樹脂系塗料 <p>塗布量：表裏面合計350g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>密度：0.9(－0.1)g/cm³以上</p> <p>形状：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 表面形状 <p>厚さ：12～25(±1)mm</p> <p>幅：455mm以上</p> 2) 断面形状(図6参照) <p>最低板厚(中実部)：10mm以上</p> <p>容積欠損率(模様深さ)：8.8%以下</p> <p>(但し、板厚12mmを超える場合は裏面から12mmの位置での欠損率とする)</p> 3) 表面の形状：①～④の一 <ol style="list-style-type: none"> ① 平滑 ② 平滑・溝加工 ③ エンボス ④ エンボス・溝加工 	セメント質原料	70(±7)質量%	無機質混和材	22(±7)質量%	有機質繊維	6(±2)質量%	有機質混和材	2(±1)質量%
セメント質原料	70(±7)質量%								
無機質混和材	22(±7)質量%								
有機質繊維	6(±2)質量%								
有機質混和材	2(±1)質量%								
野縁	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下</p>								
吊り木	<p>材料：①又は②</p> <ol style="list-style-type: none"> ① なし ② 日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材 <p>断面寸法：30×30mm以上</p> <p>取付間隔：500mm以下(軒出方向)</p> 								

つづく

つづき

換気スリット材
(図8参照)

材料：①～⑩の一

①冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)

②熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304)

③耐海水ステンレス鋼

化学成分(質量%)：

C ≤0.020

Si ≤0.80

Mn ≤1.00

P ≤0.030

S ≤0.015

Ni 17.00～19.50

Cr 19.00～21.00

Mo 5.50～ 6.50

N 0.16～ 0.24

Cu 0.50～ 1.00

④高耐錆性ステンレス鋼

化学成分(質量%)：

C ≤0.010

Si ≤1.00

Mn ≤1.00

P ≤0.040

S ≤0.007

Ni ≤0.60

Cr 22.00～23.00

Mo 1.50～ 2.50

N ≤0.020

Nb+Ti ≥16(C+N)

⑤溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)

⑥溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)

⑦溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)

⑧塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)

⑨ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744、金属板のアルミニウム及びアルミニウム合金板は除く)

⑩溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板

(国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070)

厚さ：0.4mm以上

塗料(表裏面)

・上塗材：①～⑧の一

①ポリエステル系樹脂塗料

塗厚：300(+40) μm以下

②エポキシ系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

③エポキシポリエステル系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

④アクリル系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

⑤アクリルウレタン系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

⑥ポリウレタン系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

⑦ウレタン系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

⑧ふっ素系樹脂塗料

塗厚：150(+20) μm以下

・下塗材：①～⑥の一

①なし

②ウレタン系樹脂塗料

塗厚：50(+20) μm以下

③エポキシ系樹脂塗料

塗厚：50(+20) μm以下

④アクリル系樹脂塗料

塗厚：50(+20) μm以下

⑤エポキシポリエステル系樹脂塗料

塗厚：50(+20) μm以下

⑥ポリエステル系樹脂塗料

塗厚：50(+20) μm以下

総塗厚：300(+40) μm以下

換気孔の大きさ(1孔あたり)：5.2(±1)mm×13(±2)mm以下(面積0.68cm²以下)

換気孔間隔：3(±1)mm以上

換気孔面積：164.4cm²/m以下

つづく

つづき

換気ス リット	熱発泡材	材料：グラファイト系 組成： 膨張黒鉛 30(±10)質量% 粉末充てん材 20(±10)質量% ゴムバインダー 15(±10)質量% 耐熱性繊維類 20(±10)質量% 難燃剤・ゴム薬品等 15(±10)質量% 寸法：2.3(−0.3)×8mm以上
	エンド キャッ プ	材料：①又は② ①AES樹脂 厚さ：1.5mm以下 ②なし
	位置	仕様：①、②又は③ ①壁側 ②鼻隠し側 ③中間

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
目地部材 (図9参照)	<p>材料：①、②又は③</p> <p>①突付け目地</p> <p>②金属ジョイナー ジョイナーの材質：1)～7)の一</p> <p>1)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)</p> <p>2)溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)</p> <p>3)溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)</p> <p>4)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744、金属板のアルミニウム又はアルミニウム合金板は除く)</p> <p>5)熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304)</p> <p>6)冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305)</p> <p>7)溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板 (国土交通大臣認定指定建築材料：MSTL-0064、0065、0069及び0070)</p> <p>厚さ：0.25mm以上</p> <p>形状：H形又はT形</p> <p>塗料(あり又はなし)：1)～7)の一</p> <p>1)アクリルウレタン樹脂系塗料</p> <p>2)アクリル樹脂系塗料</p> <p>3)アクリルシリコン樹脂系塗料</p> <p>4)ふっ素樹脂系塗料</p> <p>5)エポキシ樹脂系塗料</p> <p>6)ポリシロキサン樹脂系塗料</p> <p>7)ポリエステル樹脂系</p> <p>塗布量：300g/m²以下(有機固形分量)</p> <p>③本実・合いじゃくり目地 端部形状(外装材相互の重なりと隙間、図8参照) 重なり：6mm以上、隙間：3mm以下</p> <p>・目地部防水材 材料：1)又は2)</p> <p>1)なし</p> <p>2)合成ゴム</p> <p>使用量：5g/m以下</p>
受材	<p>材料：日本農林規格に適合する針葉樹の下地用製材又は下地用集成材</p> <p>断面寸法：30×40mm以上</p> <p>取付間隔：455mm以下</p>
留付材	<p>換気スリット固定用：</p> <p>材料：タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ3.6×28(－1)mm以上</p> <p>留付間隔：455mm以下</p>

つづく

つづき

留付材	<p>被覆材固定用：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリークぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径φ2.3×長さ38mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ2.0×25mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
	<p>野縁固定用(たるきへの固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N75以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径φ2.75×長さ75mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>
	<p>野縁固定用(鼻隠し下地への固定)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①鉄丸くぎ(JIS A 5508)</p> <p>寸法：N50以上</p> <p>②くぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径φ2.75×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径φ2.5×40mm以上</p> <p>留付間隔：500mm以下</p>

つづく

つづき

留付材	<p>吊り木固定用(吊り木を用いる場合)：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①リングくぎ</p> <p>②スクリークぎ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線(JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線(JIS G 3532)</p> <p>寸法：胴部径ϕ2.3×長さ50mm以上</p> <p>③タッピンねじ</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2)</p> <p>2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315)</p> <p>寸法：呼び径ϕ2.0×45mm以上</p> <p>留付間隔：227mm以下</p>
-----	---

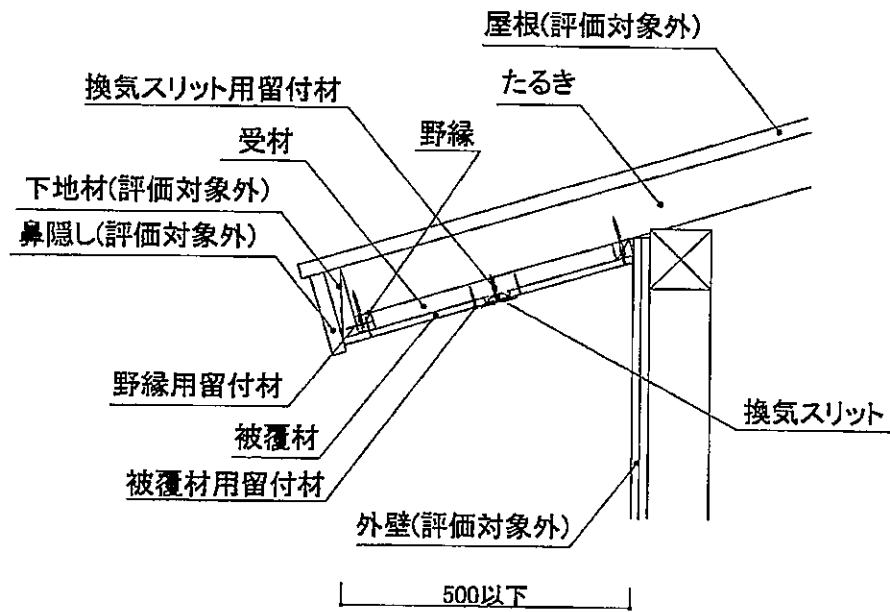
5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図9に示す。

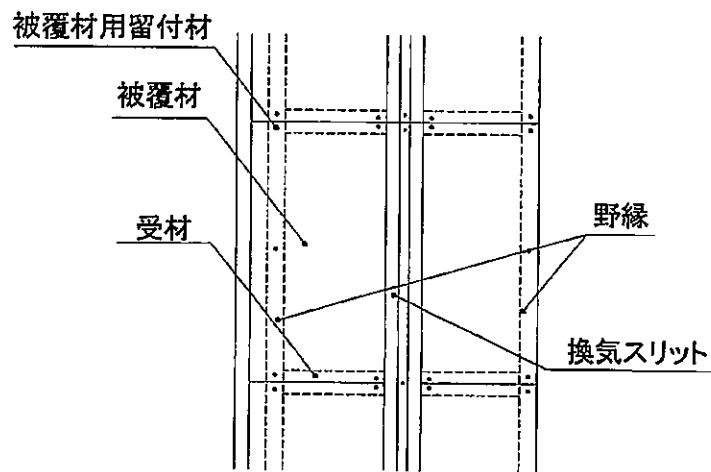
被覆材勾配

軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図

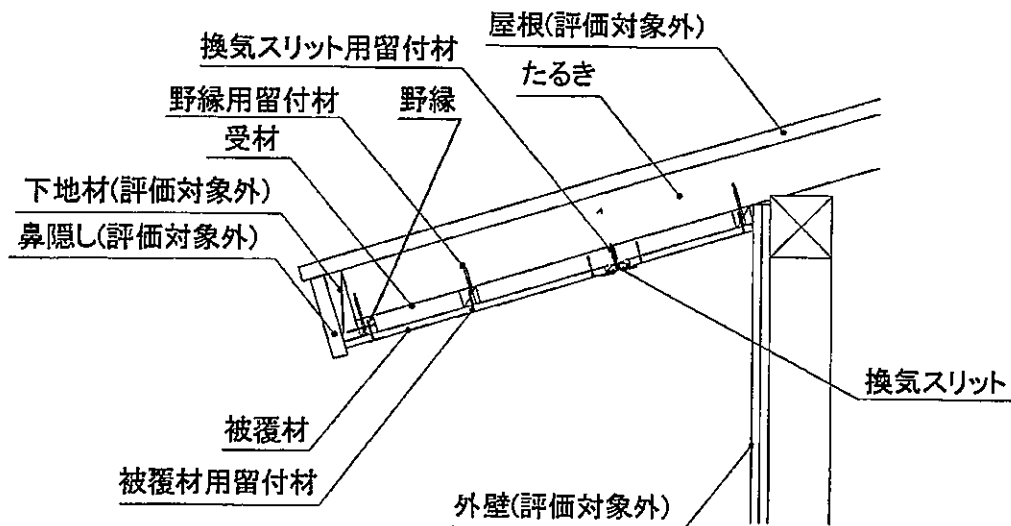


被覆材平面図

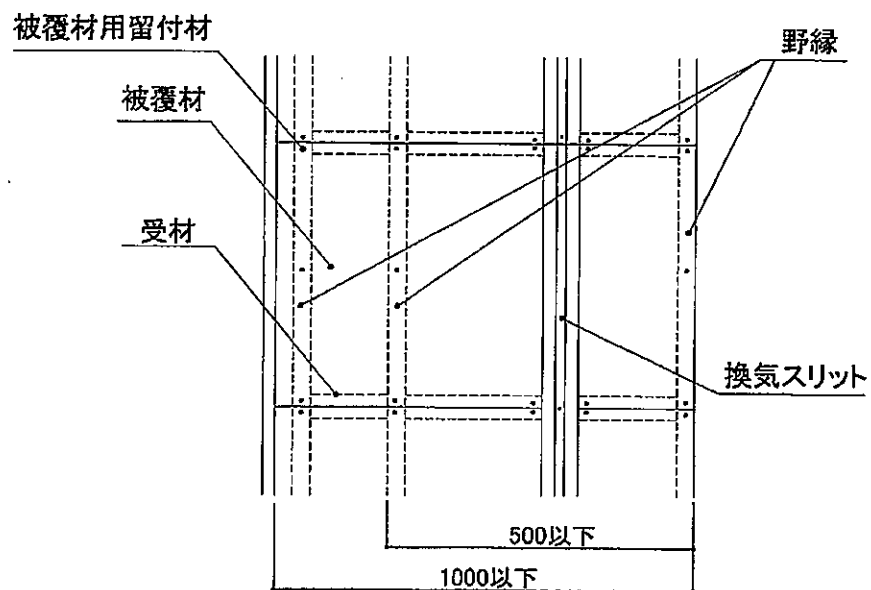
図1 構造説明図

被覆材勾配
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図

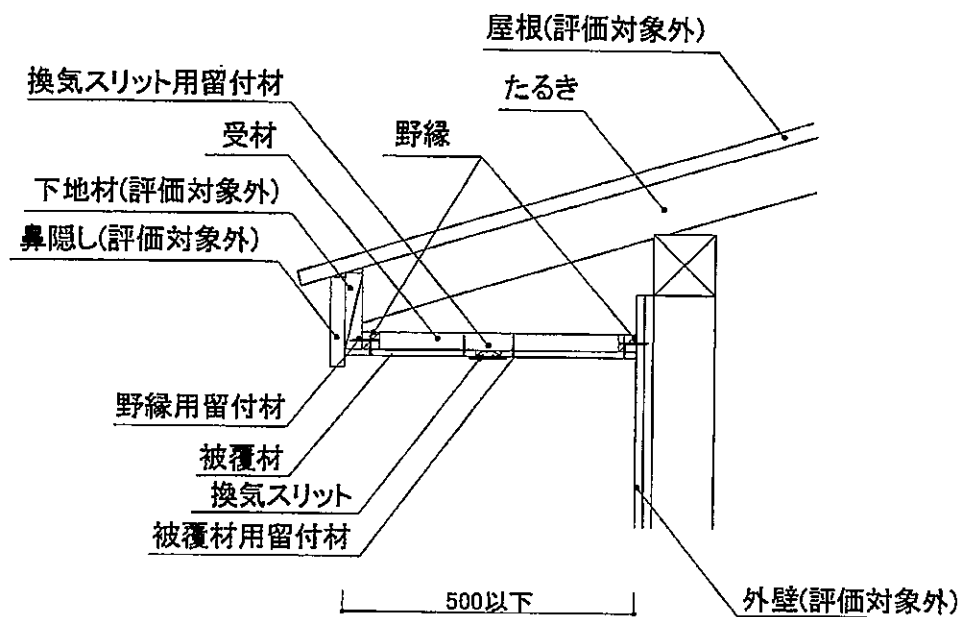


被覆材平面図

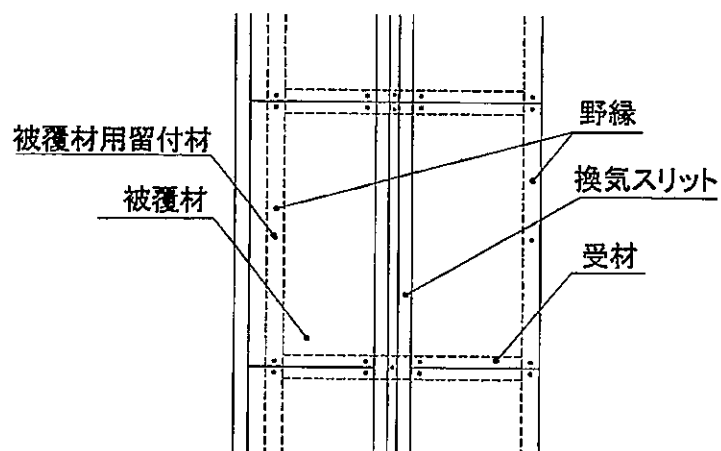
図2 構造説明図

被覆材水平
軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合

単位 mm



軒部詳細図

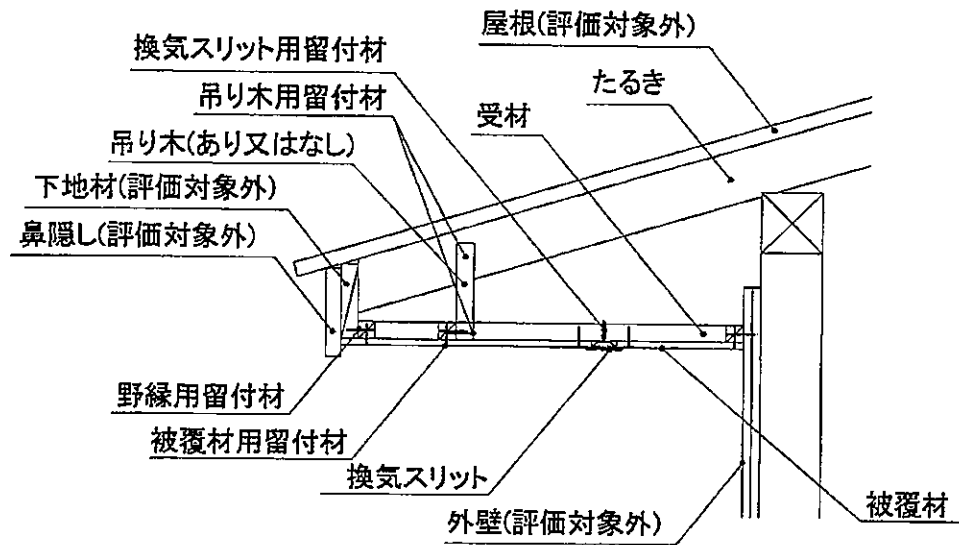


被覆材用平面図

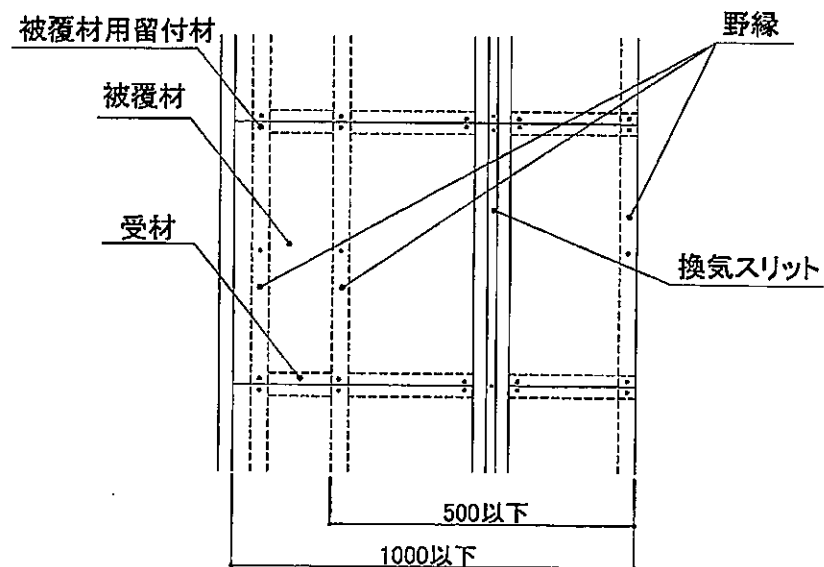
図3 構造説明図

被覆材水平、野縁梯子組
軒の出(被覆材長さ)が500～1000mm以下の場合

単位 mm

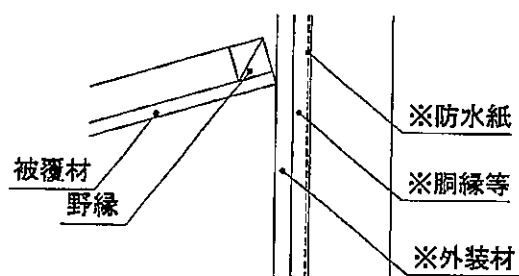


軒部詳細図

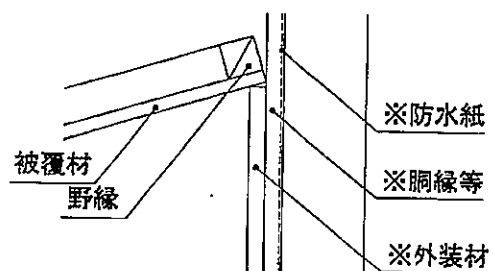


被覆材平面図

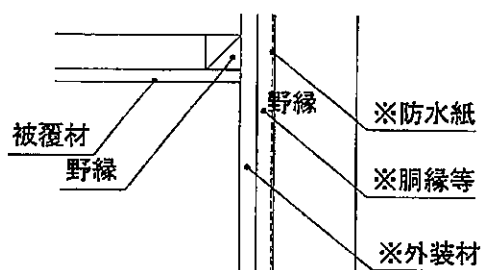
図4 構造説明図



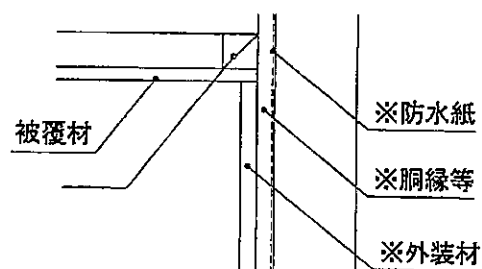
①被覆材勾配、外壁材勝ちの場合



②被覆材勾配、被覆材勝ちの場合



③被覆材水平、外壁材勝ちの場合

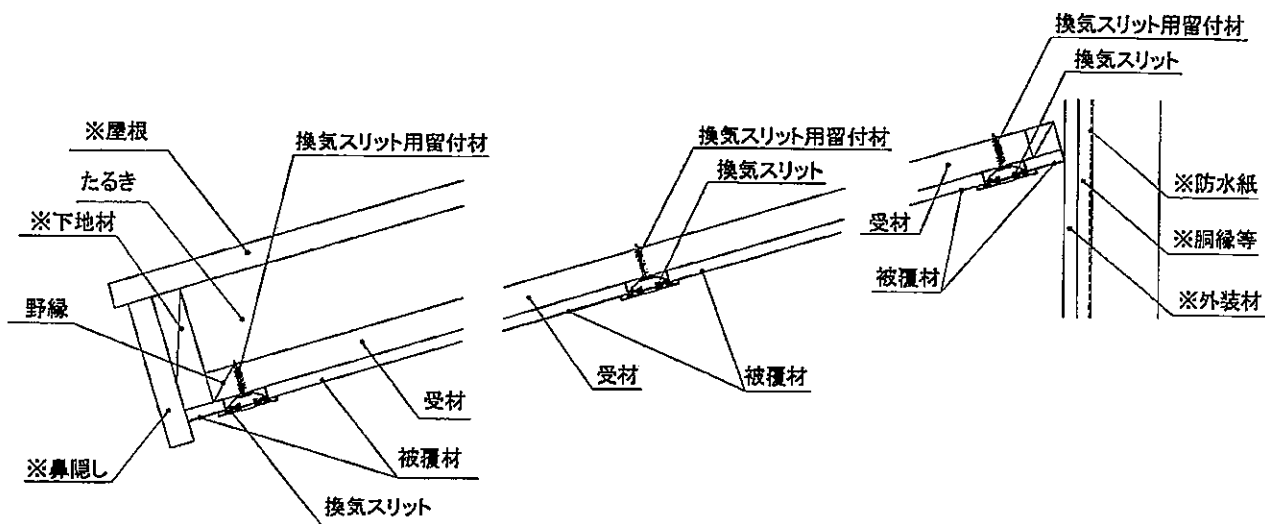


④覆材水平、被覆材勝ちの場合

※:評価対象外

軒元の納まり図

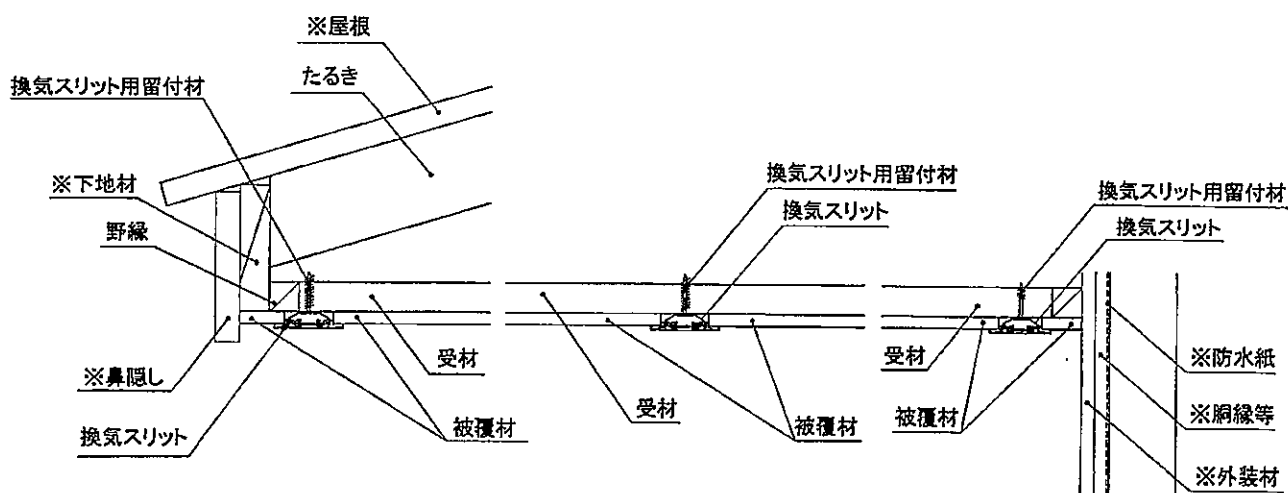
図5 構造説明図



①被覆材勾配、
換気スリット軒先施工の場合

②被覆材勾配、
換気スリット軒の中間施工の場合

③被覆材勾配、
換気スリット壁側施工の場合



④被覆材水平、
換気スリット軒先側施工の場合

⑤被覆材水平、
換気スリット軒の中間施工の場合

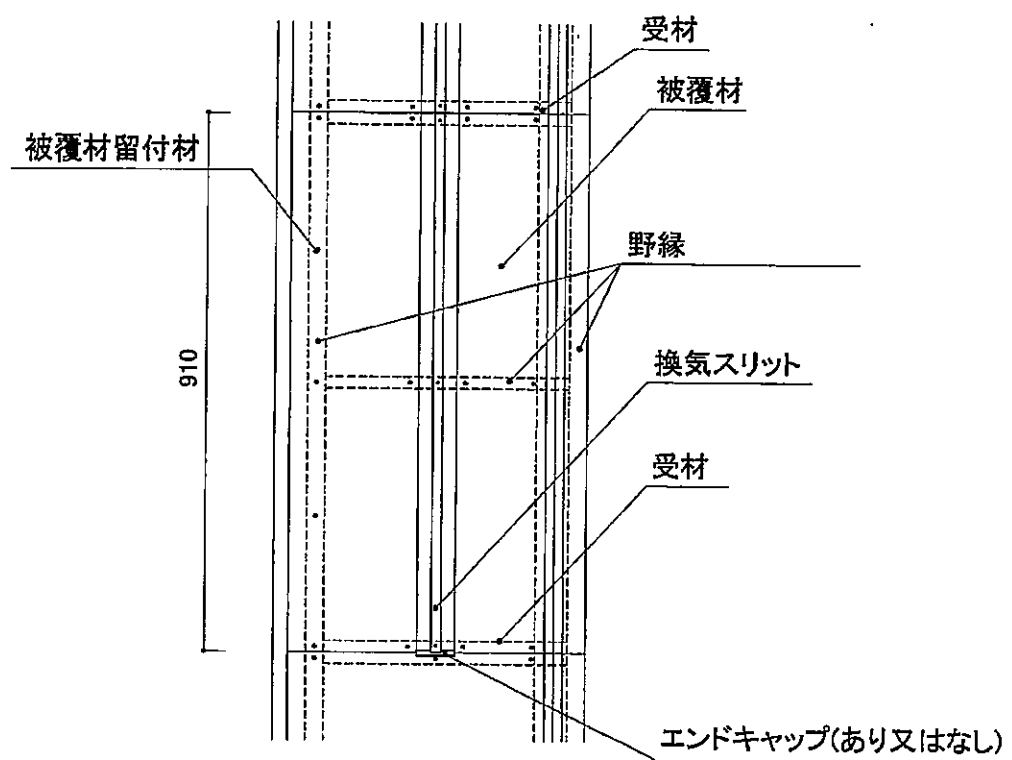
⑥被覆材水平、
換気スリット壁側施工の場合

※:評価対象外

換気スリットの納まり例

図6 構造説明図

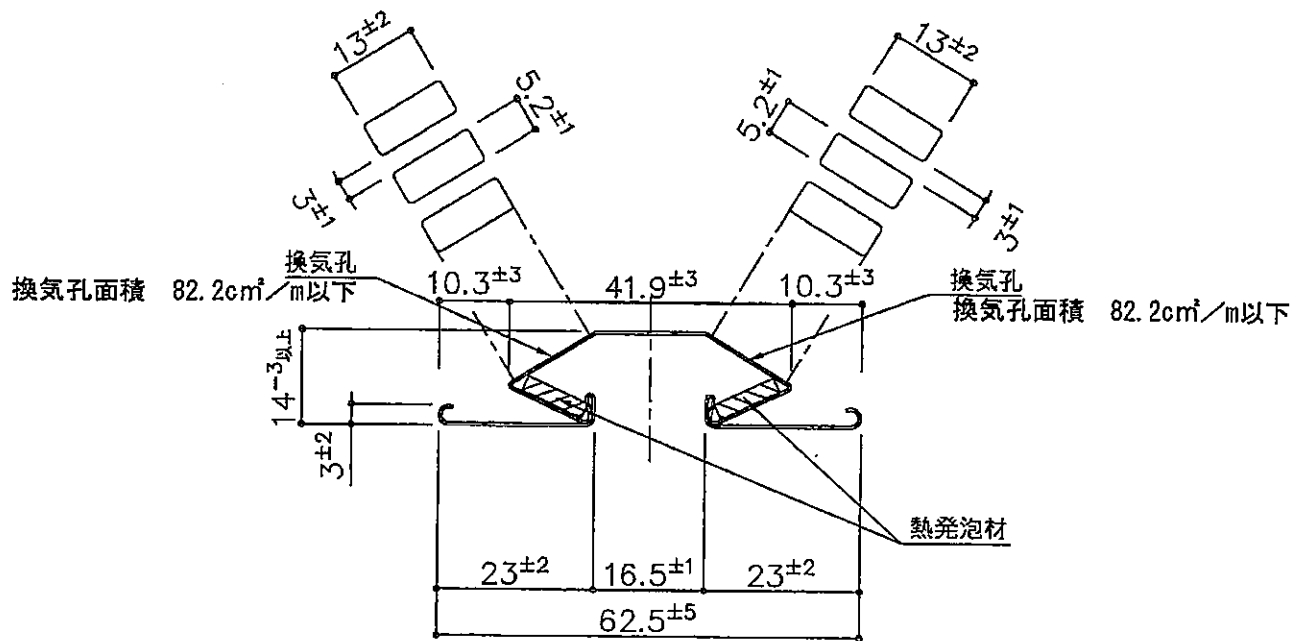
単位 mm



被覆材が455幅以上の場合の留付例:910幅製品の場合

図7 構造説明図

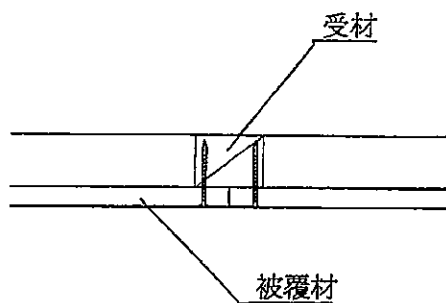
単位 mm



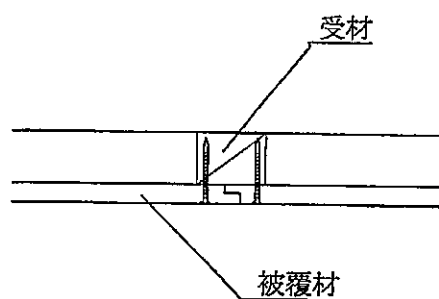
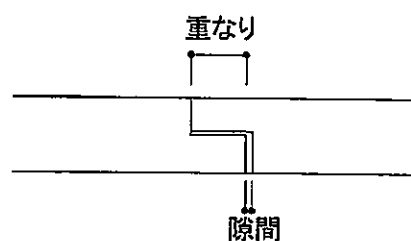
換気スリット断面詳細図

図 8 構造説明図

①突付け目地

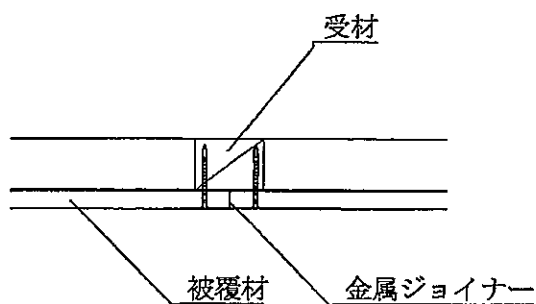


②本実・合いじゃくり目地

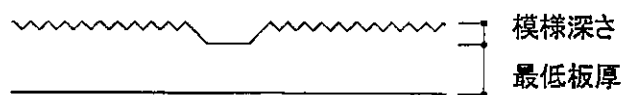


合いじゃくり形状

③金属ジョイナー目地



被覆材の目地処理(目地部材)



被覆材断面形状

図9 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図10～図13に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) たるきの取付け

屋根材にたるきを取付け、たるきに下地材を取付ける。

(2) 野縁の取付け

1) 軒の出(被覆材長さ)が500mm以下の場合は、野縁を軒の出方向及び軒の幅方向に配置し、取付間隔が500mm以下となるよう、野縁固定用留付材を用いて下地材、たるきを取付ける。

2) 軒の出が500mm以上の場合は、必要に応じて吊り木を設け、1)と同様の方法で取付ける。

(3) 被覆材の取付け

1) 被覆材は、被覆材固定用留付材を用いて野縁に取付け、取付方法は並行組又は梯子組とする。

2) 目地仕様は、突付け、金属ジョイナー又は本実・合いじゃくりとし、合いじゃくり部の目透かし幅は3mm以下とし、重ね代は9mm以上とする。

3) 被覆材と外装材は壁勝ち又は軒勝ちとし、必要に応じて金属製小口見切り又はシーリング材等でおさめる。

(4) 換気スリットの取付け

換気スリットは、換気スリット固定用留付材を用いて野縁及び受材に取付ける。

被覆材勾配、野縁梯子組
軒の出が500mm以下の場合

(単位:mm)

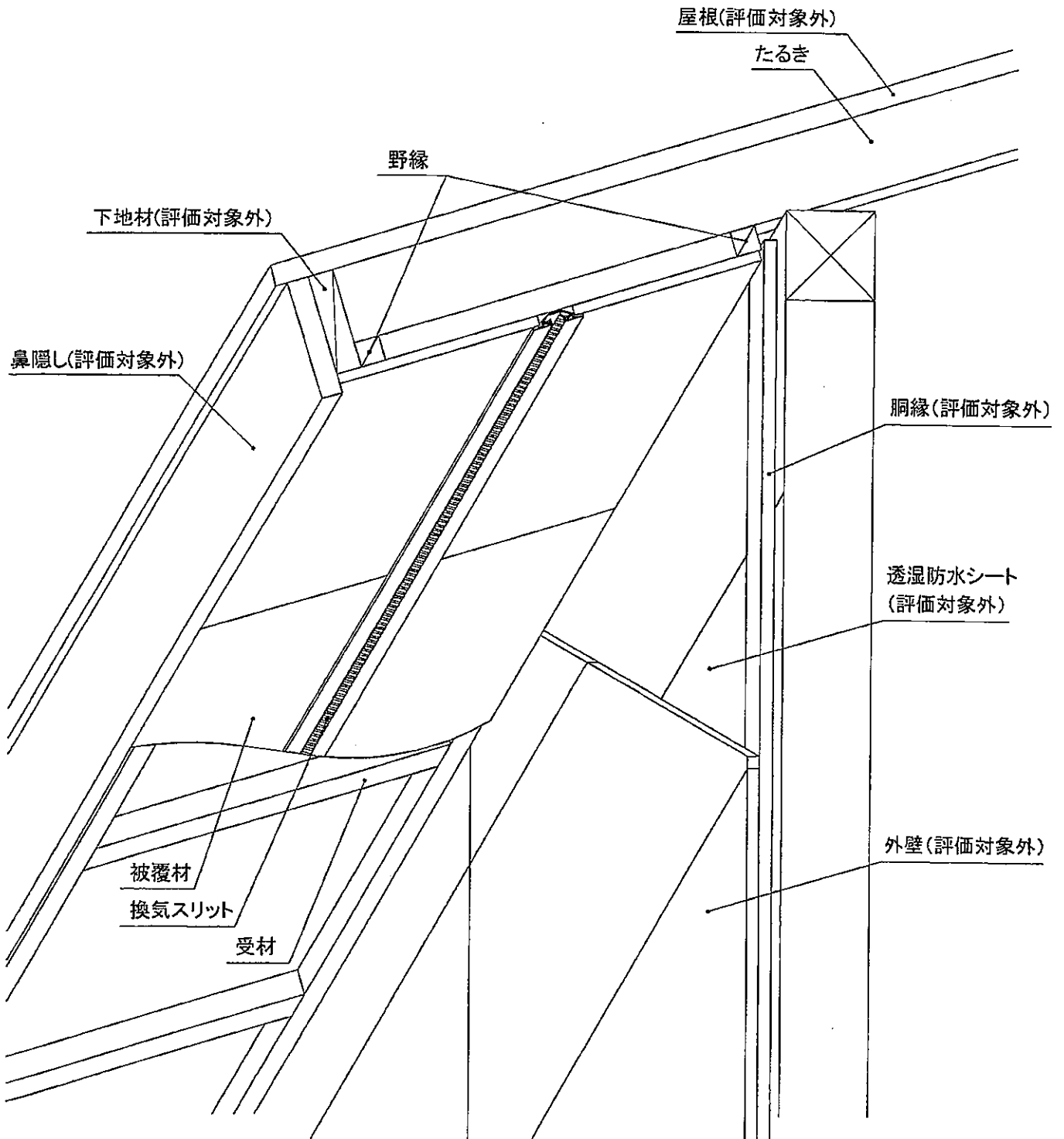


図10 施工図

被覆材勾配、野縁梯子組
軒の出が500～1000mm以下の場合

(単位:mm)

屋根(評価対象外)

たるき

野縁

下地材(評価対象外)

鼻隠し(評価対象外)

胴縁(評価対象外)

透湿防水シート
(評価対象外)

外壁(評価対象外)

被覆材
換気スリット

受材

図11 施工図

被覆材水平、野縁梯子組
軒の出が500mm以下の場合

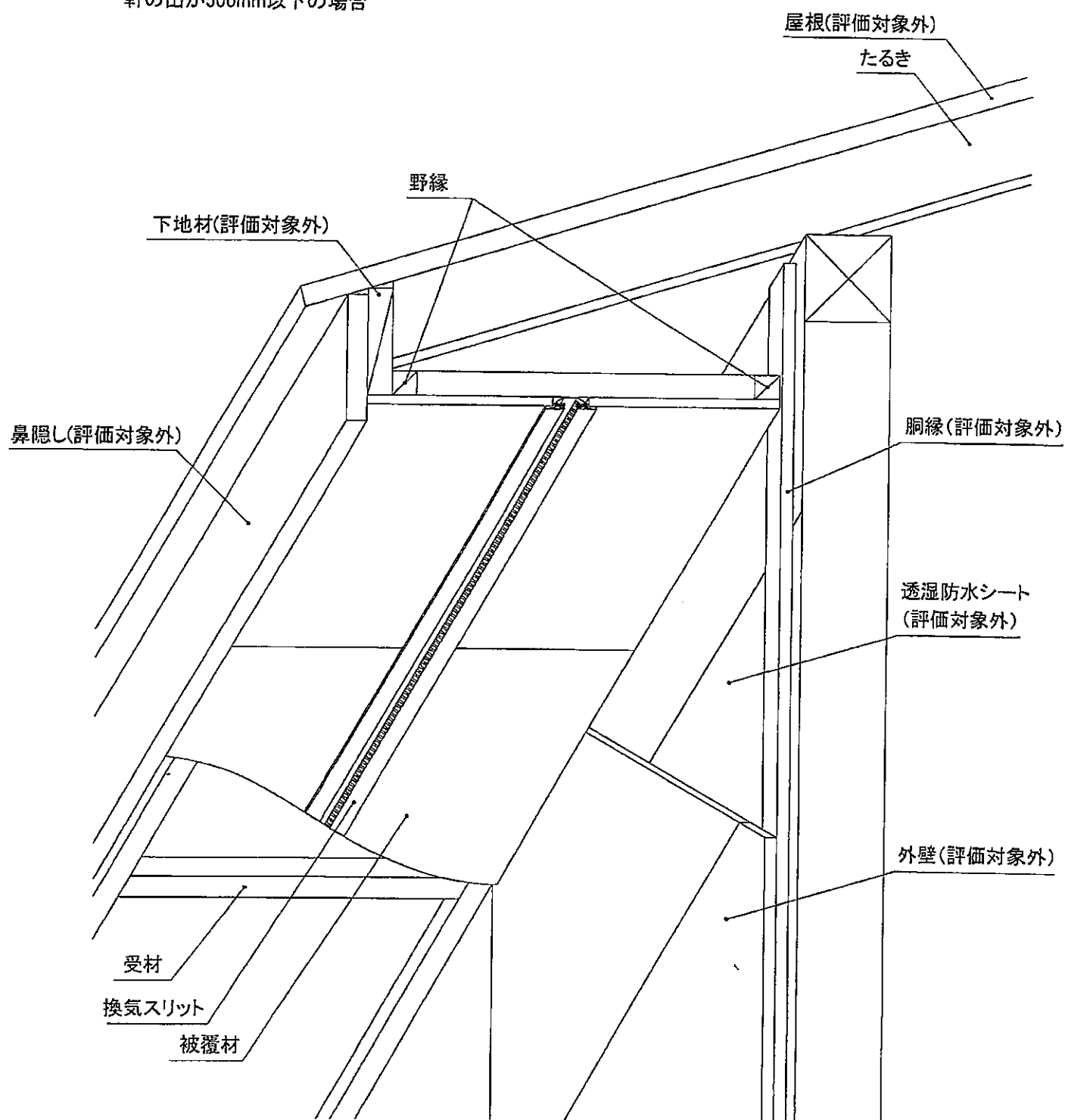


図12 施工図

被覆材水平、野縁梯子組
軒の出が500～1000mm以下の場合

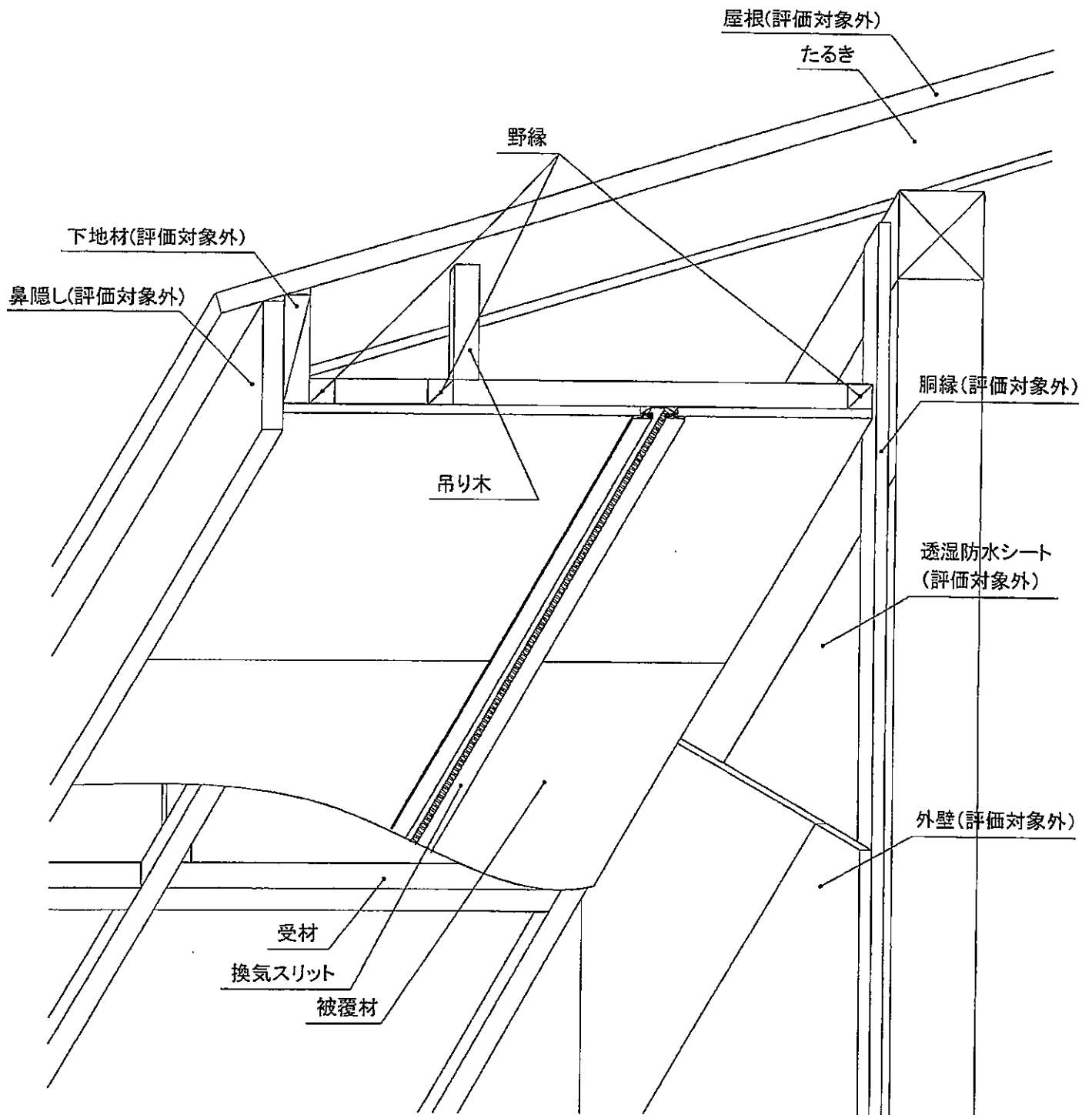


図13 施工図